



我が校の長欠対策

君津市立清和中学校 校長 奈良輪 尉

『一人一人が輝く清和中生の育成』 をめざして

はじめに

時代が進むにつれ社会は大きく変化しました。今やパソコンや携帯電話は小学生でも使いこなせます。このような便利さは反面、人間関係の希薄さを生み、人づきあいの苦手な若者を増加させているようです。

人は顔と顔を合わせ会話することで人と関わることの喜びや楽しさ、また、難しさを学んでいきます。人間関係の希薄さが叫ばれる中、とりわけ学校では生徒同士、生徒と教師、保護者や地域社会とのコミュニケーションが極めて重要になってきています。

本校は全校生徒67人の小規模校ですが、多くの生徒は明るく優しく素直で、学習やスポーツに一生懸命取り組み、すばらしい成果を上げています。このような中で長期欠席生徒は0ですが、学校には来るが教室へなかなか入れない生徒や、人間関係に不安や悩みを持つ生徒もいます。

今後も長期欠席生徒を出さないために、また、生徒達が健康で明るく心豊かに一人一人を輝かせるために次のような取り組みをしています。

1 支援への職員体制の構築

小規模校であるので、全職員が全生徒を知っています。状況に応じて情報交換をすればとの考えの落とし穴。そこで職員の情報の共有化指導方法の共通理解・役割の明確化、そのために、毎週「アプローチ」（支援を必要とする生徒の一週間の様子、及び今後の指導方法の方針を記載）の発行とそれに基づいた特別支援の会議の定例化。

2 教育相談の実施

定期的な教育相談の実施。学級担任・スクールカウンセラーを中心に「いつでも、どこでも、だれでも」をモットーに生徒理解に努め、不安や悩みの早期発見と対応。

（スクールカウンセラーや養護教諭との連携を図り、組織として取り組むことと、どんな生徒も受け入れられる居場所づくりは極めて重要かと思います。）

3 体験的活動の重視

行事は絶好の人との関わり体験の場であるとの認識。生徒を熱くさせ、熱く人と関わる喜びを味わわせる。高い価値意識をもった行事への取り組みは生徒たちの人間関係に強く作用する。どこで生徒たちを感動させるのか、どういう感動を目指し、どこでだれを輝かせるのか、教師の意図的、計画的指導は生徒たちの自尊感情、自己肯定感やお互いを認め合う心の醸成ともなっています。

体育祭・文化祭をはじめ、保育体験・福祉施設での介護体験、交流活動・職業体験BS活動など、どこの学校でもおこなわれていると思いますが、これら人と関わる体験活動は生徒たちの豊かな情操をはぐくみ、まさに生きて働く力となるものと思います。

おわりに

本校は幸いにして長期欠席生徒は0ですが今後も一人一人を「かけがいのない存在」ととらえ、生徒同士、教師と生徒の人間関係を深める中で問題の早期発見・早期指導に努めなければと考えています。

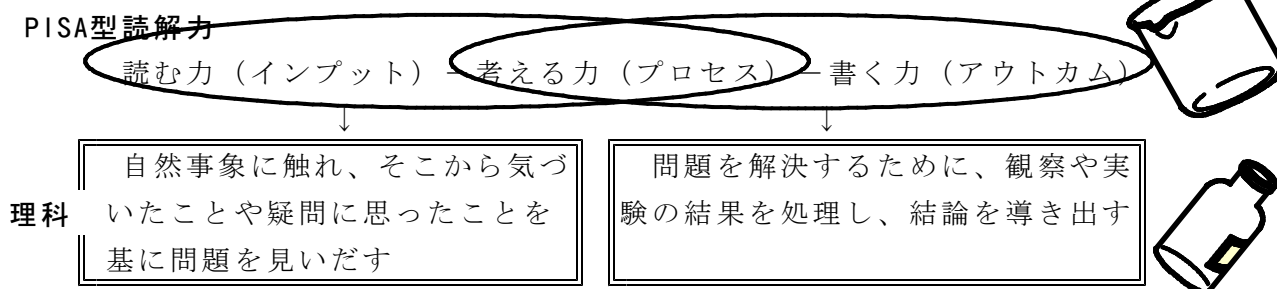
クロスカリキュラムのすすめ

小学校4年における理科と国語の連携

君津市立小糸小学校 斉藤 照恵

OECD－PISA調査結果やTIMSS調査結果から児童生徒の学力低下が叫ばれる中、今年2月に
 だされた中央教育審議会の審議経過では、「国語力の育成」について報告されている。特に
 PISA型読解力は注目されている。文献を調べると、このPISA型読解力は「読む力（インプ
 ット）－考える力（プロセス）－書く力（アウトカム）」の3つが合わさって成立する。こ
 の力は、国語のみならず教育全般で身につけておくべきものであり、理科教育においても
 重要な力である。

理科において「読む力－考える力」を育成する場面は『自然事象に触れ、そこから気づ
 いたことや疑問に思ったことを基に問題を見いだす』段階としてとらえ、「考える力－書く
 力」を育成する場面を『問題を解決するために、観察や実験の結果を処理し、結論を導き
 出す』段階と捉えることができる。



ここで、理科の授業について考えると、問題解決の過程では「見通しをもつ」ことが重
 要であり、観察・実験前の活動を充実させることに力を入れてきた。しかし、観察・実験
 後の結果の処理や、結果から結論を導き出すことも大切な学習である。となく、単元の導
 入では力を入れて準備をし、事象との出会いを大切に扱うが、その後は実験させて終わっ
 てしまったり、まとめを教師が一方的にしまったりすることが多かった。しかし、「書く力（アウトカム）」の育成にも力を入れていかなければならない。観察・実験の結果をど
 のように表し、その結果からどのようなことがいえるのかを考察して的確に表現する。こ
 の過程についての指導の工夫・改善を図ることも必要である。

ところで、国語（教育出版）の4年生の教科書には、1学期の教材として「花を見つけ
 る手がかり」が載っている。文章を正しく読み取ることが教材の目標であるが、その内容
 は、実験方法と事象を関係づけ、次の実験に進み、問題を解決していくという理科学習そ
 のものである。つまり、国語の授業をしながら、理科の課題解決の手順を学習することが
 できるのである。また、2学期の「実験したことをもとに」では、「アーチ橋の仕組み」の
 文章をもとに、実験の順序に沿って記録文を書く方法を学習していく。

これは一石二鳥！！連携させない手はない。そこで、複数教科を指導する小学校の学級担
 任という立場を活用し、国語と理科を連携させ、【実験を進めながら課題を解決していく力（思考力）】や【実験方法や結果などをまとめ記録する力（表現力）】をつけていく授業を
 展開したいと考え、次頁のような実践を行った。

課題はあるが、成果も上がった。小学校の先生方！4年生の学級担任になったら、この
 クロスカリキュラムを、是非試してみてください。また、他学年でも連携できそうな教材が
 あったら教えて下さい。

(実践1)国語「花を見つける手がかり」→理科学習の進め方と対応させる。

時間	学 習 活 動
1	・ 範読を聞き、初めて知ったことや感想を発表し合い、形式段落に分ける。
2	・ ①②段落より、問題文と三つの手がかりを読み取り、 <u>理科学習の進め方のプリント</u> にまとめる。
3	・ 1 番目から 3 番目の実験内容と結果、わかったことや新たな疑問を読みとり、プリントにまとめる。
7	・ 筆者の考えを読みとる。



(実践2)国語「アーチ橋の仕組み」→実験メモの取り方を学習する。

時間	学 習 活 動
1	・ アーチ橋とはどんな橋か特徴を捉え、範読を聞き、わかったことや疑問に思ったことを発表し合う。
2	・ 形式段落、大段落に分け、「花を見つける手がかり」の学習を思い出し、内容の特徴を確認する。
3	・ 大段落（一）から一つ目の疑問とそれを明らかにするために実験を二つ行っていることを読み取る。 ・ 「実験したことをもとに」から、実験メモをもとに文を書くことを知る。
4	・ 大段落（一）の実験を <u>実験メモの形式に合わせて</u> まとめる。 (調べること・実験方法・結果・わかったこと)

(実践3)理科「温度を変えて、かさの変化を調べよう」

時間	学 習 活 動
1	・ 口に石けん膜をつけた試験管を手で温め、石けん膜の様子を観察する。 ・ 石けん膜の変化の原因を考える。
2	・ 前時で考えた原因を追究するための実験方法を考え、『理科学習の進め方』をもとに計画を立てる。
3	・ 各自の考えた実験方法で、温めた場合と冷やした場合の空気のかさの変化を調べ、実験メモを参考にノートに記録をとる。そして、結果をもとに空気のかさと温度の関係をまとめる。
4	

(実践4)国語「実験したことをもとに」→記録文を書く。

8	・ 「空気のかさと温度」についての実験を <u>記録文</u> に書く。
---	--------------------------------------

成果○と課題▲

○ 6 月から少しずつ実践を重ねたので、理科の授業では「理科学習の進め方」をもとに繰り返し実践でき、学習方法の定着に役立った。また、記録の取り方やノートのまとめ方も身に付いてきた。

○ 記録文を書くことにより、学習の流れを再確認することができ、実験の事実(結果)と考え(わかったこと)の区別を再度指導することができた。

▲ 理科と国語の授業進度を合わせなければならない。

▲ 理科と国語の学習内容のずれを修正しながら進めなければならない。

君津市小中学校教育課程講演会を終えて

7月28日、地域情報センターにて、埼玉県戸田市立新層小学校の小川隆夫先生をお招きして、「子どもが活躍する小学校英語－Let me try kids－を育てるために」という演題で、教育課程講演会を行いました。講演では、英語指導の理論的側面からのアプローチとともに、英語活動における指導法を実際に示していただいたり、ビデオやCDなどの教材を紹介して下さったりと豊富な内容で、参加した先生方から大変よい評価を頂きました。その、概要は次のとおりです。

《小学校英語の課題》

○英語導入に対する反対派、慎重派の主張

・文部科学省の調査によると、平成17年度には全国の小学校の93.6%が実施している。安易な導入に慎重になるのはわかるが、もし全くのゼロになったら現場はさらに混乱するであろう。反対派の意見として、国語力の育成の方が重要であるという論調が多いが、英語を推進している私たちも国語の重要性は当然理解し、真剣に取り組んでいる。

○無いものだらけの現場の混乱

・カリキュラム、教材、予算、研修などすべてが不足している。その結果、ALTに任せっきりの授業、計画性のない指導（何年やっても歌やゲームの繰り返し）、あつてはならない違法コピーの教材使用など、危機的な現状がある。

○小学校英語の目標の明確化

・これまでのように、英語活動を実践するだけでなく、今後は小学校で英語を学ぶことにどれだけの価値があるのかを証明していかなければならない。そのためには、英語活動の成功の基準を明瞭に示すことが重要である。そうすることで初めて、指導の目標が明らかになり、到達するためのカリキュラムを立てることができる。

《小学校英語を成功させる秘訣》

○多量のインプットと繰り返し

・私たちは英語を始めるとすぐに子どもたちに話させたいと考えがちである。教師があせって話させると発音が悪くなり、意欲もそがれてしまう。それよりも正しい英語をたくさん浴びせることが大切である。英語の歌を校内放送で流したり、英語の単語が書かれている絵を掲示したり等、子どもたちが身近に感じる英語の環境を作ることがよいであろう。

○英語はリズムとイントネーション

・発音とともに、英語独特のリズムを体得させたい。単語をたくさん覚えて文法規則と結びつけるより、チャンツや歌遊びなどを通して、英語をかたまりとして身につけさせたい。

○学級担任とALTの役割の明確化

・担任の役割・・・＊積極的に英語に取り組む姿勢を見せる ＊ALTの発音をよく聞き、口元を見て進んで真似をする
＊日本語をできるだけ話さない ＊進行役になり、子どもたちが理解できないことをALTに伝える
・ALTの役割・・・＊正しい発音を聞かせる ＊発音指導を行う ＊ジェスチャーを見せる ＊自国の文化や伝統を伝える

教科指導員の活用を

君津市教育委員会では、各教科・領域の指導に関して識見を有する市内小中学校の教職員を「教科指導員」として委嘱し、各学校に派遣する制度を設けました。

小中学校の校内研究会や教育委員会主催の研修会等の指導助言が主な職務となっておりますが、特に、教職経験1～3年目の若年層の先生方の指導力向上にお役に立てればと考えております。

下記の先生方に委嘱しておりますので、ぜひ制度の活用をお願いいたします。

教科・領域	氏 名	学 校 名
国 語	鈴木 美幸 先生	中 小学校
算 数	榎本 聡 先生	小櫃 小学校
理 科	大野 喜弘 先生	小糸 小学校
図画工作	齊藤 裕 先生	久留里小学校
体 育	平野 利之 先生	小櫃 中学校
道 徳	安田 正幸 先生	秋元 小学校
道 徳	柴田 克 先生	亀山 中学校
特殊教育	長谷川初子 先生	中 小学校

※ 学校全体の校内研修や授業研究会だけでなく、「5校時（6校時）の授業参観・放課後の個別指導」や「個別の指導案検討」という形でも結構です。
どうぞ気軽にご依頼ください。

教育センター

教育センターでは、先生方の自主研修及び校内研修などで活用していただくビデオ教材、月刊誌等の貸し出しを行っています。各学校に、貸し出し一覧をお配りしてありますが、新しく加わったものを含め、いくつか紹介します。是非ご利用ください。

【ビデオ教材】

- 「えいごリアン」1～5 及びカードゲーム(CD付き)
- 「Hi-Bye English」1～8
- いじめ・不登校に関するビデオ
- 市道君津駅前線開通記念記録ビデオ及びシナリオ
- 薬物防止に関するビデオ
- 古典入門ビデオ（平家物語 等）

【月刊誌】

- 「児童心理」 金子書房
- 「月刊 学校教育相談」 ほんの森出版
- 「月刊 生徒指導」 学事出版
- 「初等教育資料」 東洋館出版
- 「中等教育資料」 (株) きょうせい
- 「指導と評価」 日本教育評価研究会
- 「総合教育技術」 小学館
- 「国語教育」 明治図書
- 「学校マネジメント」 明治図書
- 「子ども英語」 アルク

ビデオ・月刊誌の詳細につきましては、ご連絡いただくか、直接教育センターにお出でください。